

# 非正規雇用と雇用契約期間の状況

— 常雇の非正規が6年間で約300万人増 —

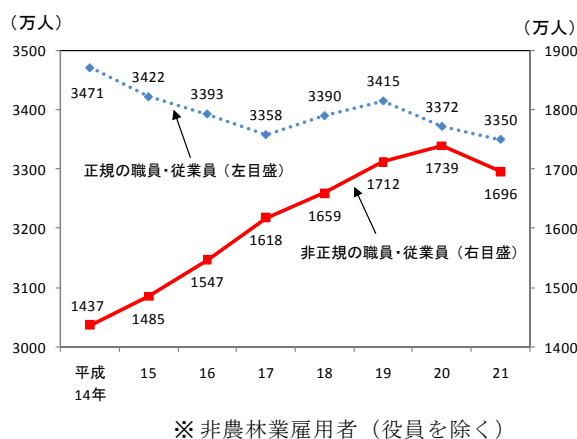
非正規雇用者は平成14年から20年までの6年間で302万人増加しました。この非正規雇用者について、雇用契約の長さとの関係で見ると、雇用形態が非正規でも、「常雇」など契約期間が長期・継続的な雇用者が多くなっているのが分かります。

- (注1) 「常雇」とは、雇用契約期間が1年超又は雇用契約期間の定めがない者としています。一方、雇用契約期間が1年以下の者を「臨時雇・日雇」としています。
- (注2) 雇用形態は、勤め先でどのように呼ばれているかで区分しています。非正規雇用者（「非正規の職員・従業員」）は、正社員（「正規の職員・従業員」）以外の者、例えば「パート」、「アルバイト」、「労働者派遣事業所の派遣社員」などの者としています。

## 「非正規の職員・従業員」は302万人増加

非農林業雇用者（役員を除く）を正規、非正規別にみると、平成14年から20年までの6年間で「正規の職員・従業員」は99万人減少しているのに対し、「非正規の職員・従業員」は302万人増加しています。（図1）

図1 正規、非正規別にみた雇用者の推移

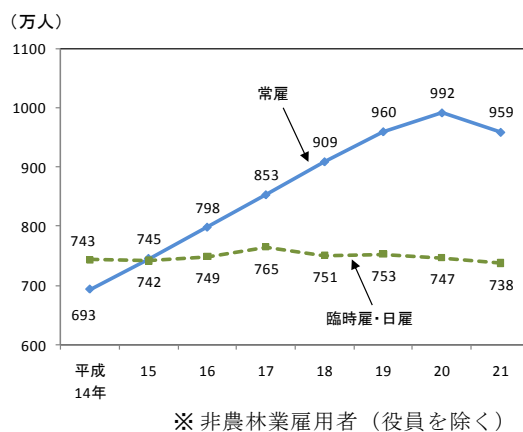


## 「非正規の職員・従業員」のうち「常雇」は299万人増加

「非正規の職員・従業員」のうち雇用契約期間が1年超又は期間の定めのない「常雇」は、299万人増加しています。

一方、雇用契約期間が1年以下の「臨時雇・日雇」は、ほぼ横ばいで推移しています。（図2）

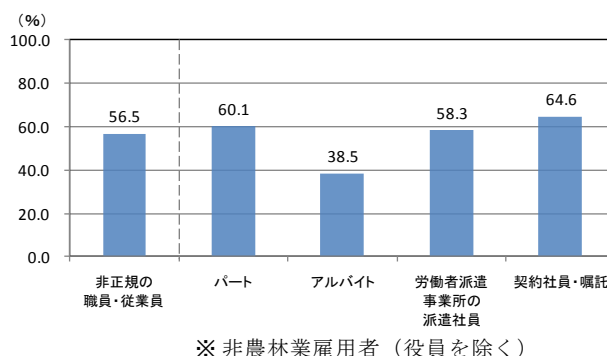
図2 雇用契約期間別にみた非正規の職員・従業員の推移



## 「非正規の職員・従業員」に占める「常雇」の割合は56.5%

平成21年の「非正規の職員・従業員」に占める「常雇」の割合をみると、56.5%と半数以上を占めています。内訳では、「契約社員・嘱託」が64.6%、「パート」が60.1%、「アルバイト」が58.3%、「労働者派遣事業所の派遣社員」が38.5%となっています。（図3）

図3 雇用形態別にみた常雇の割合（平成21年）



(参考) より詳しいデータ（平成21年）・資料はこちら

【関連する結果表】

- ◆ [雇用形態、雇用契約期間別雇用者（詳細集計・報告書非掲載第6表）](#)

【関連資料】

- ◆ [結果を見る際のポイント No.3 『「常雇、臨時・日雇」と「正規・非正規」』](#)